

石ヶ谷子安地蔵が修理されました

石ヶ谷子安地蔵は西丹生図にあり、子授け、安産祈願で知られている磨崖仏まがぶつ（自然の岩に彫刻した仏像）で、高さ約9m、幅約5mあまりの岩に彫刻された高さ80cmの地蔵です。県内ではこのような磨崖仏は少なく、貴重なものであることから町の文化財に指定されています。

近年、磨崖仏を覆うお堂が老朽化し、地元の方々によってその改修が検討されてきましたが、この度新しく建て替えられました。改築されたお堂は、以前のお堂と同様の規模・外観で建て替えられ、かつての雰囲気踏襲されています。

また、磨崖仏自体も風化が進み、将来への保存が心配されていましたがお堂の改築に併せて保存修理が行われました。修理前は、像全体に剝離や亀裂が生じ、特に錫



おわびと訂正／広報ありがわ6月号「探訪わが町文化財」の中で「16副からなる十六羅漢像」と表記しましたが、正しくは「16幅からなる十六羅漢像」の誤りです。ここに訂正しておわび申し上げます。

杖じょうの付近は損傷が激しい状態でした。今回の保存修理では、長い年月の間にたまったほこりや汚れを取り除いた後、石材強化の薬剤を染み込ませて強化処理を行いました。また、層状に剝離が進行し、崩落する危険性が高い所や亀裂が生じている部分については、樹脂などを用いて隙間を埋める作業を行いました。

今回のお堂の改築と磨崖仏の修理は、貴重な文化財を守ろうという地元の方々の情熱によって実現したものです。修復された石ヶ谷子安地蔵は、7月24日（月）に催される夏の縁日においてご開帳されますので、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。